

目次

〈研究シーズ〉

学部学科等		職名	氏名	タイトル	ページ
環境科学部	環境政策・計画学科	講師	堀 啓子	持続可能な社会 - 生態システムの実現に向けた研究	1
	生物資源管理学科	講師	松田 壮顕	農業分野から考える気候変動の緩和策・適応策	2
工学部	材料化学科 (ガラス工学研究センター 兼務)	教授	松岡 純	ガラスの融液物性・熱物性と破壊現象の研究	3
		准教授	山田 明寛		
	ガラス工学研究センター (材料化学科兼務)	講師	西脇 瑞紀	不均一構造を利用した高性能・高機能プラスチックの開発	4
		講師	木田 拓充	不均一構造を利用した高性能・高機能プラスチックの開発	4
機械システム工学科	教授	片山 仁志	サンプル値制御理論の機械システム制御系設計への応用	5	
人間文化学部	生活デザイン学科	講師	大江 由起	生活行為や年齢層に応じた照明環境に関する研究	6
	生活栄養学科	准教授	青木 るみ子	給食施設の衛生管理に関する実態調査 事業所給食の持続的な食環境整備の促進	7
	人間関係学科	准教授	本宮 裕示郎	教養概念を切り口にして教育目的・目標のより良いあり方を考える	8
	国際コミュニケーション学科	准教授	山本 薫	ヨーロッパ現代思想で読む英国小説	9
人間看護学部	人間看護学科	教授	千葉 陽子	妊婦や子育て中の母親のストレスに関する研究	10
		准教授	板谷 裕美	サステナブルな月経用品の普及に貢献する	11
		准教授	川田 陽子	精神科長期入院患者の退院支援に関する継続教育	12
		准教授	小林 孝子	自閉スペクトラム症のある女性が安心して子どもを育てるための支援	13
		講師	大羽 詩織	看護教育と地域で展開される看護	14

〈研究者別 研究分野・キーワード一覧〉

15-18

※SDGs目標別の研究シーズ：次頁からのSDGs目次を参照してください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



妊婦や子育て中の母親のストレスに関する研究

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部 人間看護学科 教授 千葉 陽子

研究分野 : 生涯発達看護学 助産学

少子化が進行する中、妊婦や子育て中の母親たちは様々なストレスを抱えて生活しています。こうした方々の現状を把握してストレスの可視化に取り組んだり、支援を探究したりしています。

■WITH・POSTコロナ時代に求められる妊娠期の健康教育・保健指導のあり方の探究

- ・ COVID-19パンデミックの影響により国内外で人々の移動・接触の制限が続く中、対面・接触を主軸としてきた医療・看護の領域でもオンラインによる非対面・遠隔での支援が急速に広がっていきました。周産期領域でも、医療機関や行政機関での業務に様々な制約が生じ、妊婦や母親たちの生活行動にも制限が課されるようになり、オンライン支援が導入されていきました。
- ・ こうした中、本研究では妊娠期の健康教育や保健指導に焦点を当てて、WITH・POSTコロナ時代に産科医療・地域母子保健分野で求められる支援のあり方、特に助産師や保健師ら医療専門職に真に求められている対面・接触での支援の本質を探究することを目指しています。

■生殖可能年齢の女性のライフイベントと尿中ストレスマーカーとの関連性

- ・ 酸化ストレスとは、活性酸素の産生が過剰となり抗酸化防御機構が崩れた状態のことです。一方、ヘムの代謝産物であるビリルビンは黄疸の原因物質ですが、強力な抗酸化作用があり、過剰な活性酸素と反応してバイオピリンとして尿中に排泄されます（塩地, 2005；山口ら, 2005；平井ら, 2006；高橋, 2019）。
- ・ そのため、非侵襲的採取が可能な尿中のバイオピリンを酸化ストレスマーカーとして評価する研究が行われており、バイオピリンは精神疾患（Miyaoaka et al., 2005）、敗血症（Otani et al., 2001）、心筋梗塞（Kunii et al., 2009）などの他、マラソン後（平井ら, 2006）、スピーチに伴う精神的ストレス（Yamaguchi et al., 2002）などでも上昇することが報告されています。
- ・ 本研究では、非妊娠女性、妊婦、産後の母親らの尿中バイオピリン（urinary biopyrrin: UBP）を分析し、これらの人々のストレスを数値化して評価することに取り組んでいます。

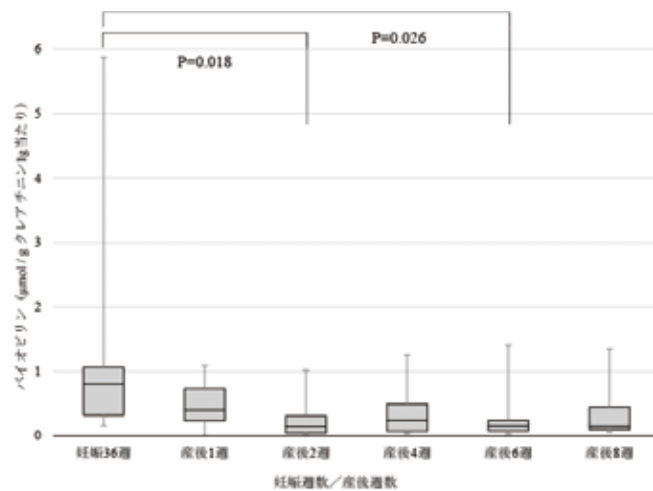


図1 尿中バイオピリン値の変動

各時期n=14, Friedman test : p=0.008

<共同研究の状況>

セルスペクト株式会社：生殖可能年齢の女性のライフイベントと尿中ストレスマーカーとの関連性

サステナブルな月経用品の普及に貢献する



人間看護学部 人間看護学科 准教授 板谷 裕美

研究分野：母性看護・助産学、ウィメンズヘルス、助産ケア、
母乳育児、助産師のキャリア発達支援

概要：月経年齢を迎えたすべての女性が、自分の月経管理に安全性・安楽性・快適性を求めることは、女性の基本的権利であるといえます。月経にまつわる健康と質の高い教育を享受し、ジェンダー平等（女性のエンパワーメント）の実現をめざす取り組みを、女性とのパートナーシップに基づいた助産実践の視点から考えていきます。

■日本人女性における月経カップの使用実態および普及に関する研究

月経カップ [Menstrual Cup] はサステナブルな月経用品の一つです。月経カップが日本国内の男女にどの程度認知され普及しているのか？ 月経カップの使用が、女性の生活の質や心理的ストレスにどのような影響を及ぼすのか？について研究しています。



➡日本人助産師を対象に実施した当研究室の先行研究から、月経カップ使用に対する心理的抵抗感や不安といったネガティブイメージを減らす関わりが重要である事がわかっています (Table 1.参照)。

*すべての女性が個々のニーズに応じて、月経用品の一つに月経カップを選択できる情報提供と、思春期以降の月経教育の充実が重要であると考えています。

Table 1.月経カップ使用後の感想

	月経カップ使用に伴う快適感	月経を忘れるほどの快適感(4) 紙ナプキン使用時の不快症状の解消(5)
ポジティブ フィードバック	月経カップ使用に伴うメリット	経済的で日常生活上とても便利(5) 月経に対する興味関心の向上(2)
	繰り返し使用することで体得する簡便性と着脱方法	思ったよりも簡単な装着と安楽さ(3) 繰り返し使用による慣れと着脱方法の獲得(7)
	月経カップの使用に伴う不快感	カップ着脱時の痛み(7) カップ挿入に伴う違和感(5) カップ着脱の困難感(5) カップ装着や交換にかかる手間と時間(3) カップ取扱い時の手の汚染に伴う抵抗感(4)
ネガティブ フィードバック	カップの取扱いに関する衛生面での不安と不快感	トイレ内の衛生面での気がかり(2) 汚れたカップの再挿入に対する抵抗感(2) 経血逆流とカップの保管方法に対する不安(2)
	月経カップ使用に伴う心理的抵抗感	使用開始当初の緊張感と焦り(5) 膣内挿入への抵抗感と正しい着脱への不安(7)

Yumi Itaya, Yoko Furukawa. Ease of use of menstrual cups among Japanese midwives. 31st ICM Triennial Congress, Toronto 2017.

■授乳女性の母乳育児支援に関する研究

- ・母乳哺育をする女性の自己効力感尺度の開発 ➡ Paper Published
- ・分娩時大量出血をきたした女性の母乳分泌量や乳汁中の鉄含有量は減少するのか？ ➡ [No]
- ・就労しながら乳児を育てる女性の母乳育児支援には何が必要なのか？ ➡ Research Ongoing
- ・授乳女性の不快性射乳反射；Dysphoric Milk ejection reflex (D-MER) や、母乳育児（授乳）嫌悪；Breastfeeding/Nursing Aversion and Agitation (BAA) のわが国における実態は？ ➡ Research Ongoing
- *授乳女性の母乳育児自己効力感を高めるケアを考えると同時に、母乳育児支援に対する助産師自身の自己効力感を高めていく必要もあると考えています。

■助産師のキャリア発達支援に関する研究（他機関共同研究）

- ・勤務助産師における就業継続困難感尺度の開発 ➡ Paper Published
- ・勤務助産師の就業継続困難感に関連する要因 ➡ Research Ongoing

精神科長期入院患者の退院支援に関する継続教育

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部 人間看護学科 准教授 川田 陽子

研究分野 : 精神看護 専門看護師実践

研究者は精神看護専門看護師として、精神科医療の現場で困難患者への看護実践、看護師への教育・相談、倫理調整、多職種連携チームの運営を行ってきました。そのような活動の中で、精神保健医療福祉の最も大きな課題と感じていたのが精神科長期入院患者の存在です。日本の精神科入院患者数は世界一であり、2019年10月には国連・障害者権利委員会から重大な人権侵害であると注意勧告を受けています。これを解消しようと、国の施策によって施設収容型医療から地域医療中心へと急な方向転換が図られ、すべての精神科病院で長期入院患者への退院支援が求められることになりました。精神科看護師たちにも看護の方向転換が求められていますが、そのための支援や教育に関する研究は不足しています。精神科医療では今後も長期入院患者の存続が予測されているため、精神科看護師に対する長期入院患者の退院支援に関する教育支援は急務であると考え、研究を続けています。

■精神科病院における退院支援看護実践について

精神科長期入院患者への退院支援における看護実践の内容は、患者の準備状態に応じていくつかの段階に分かれています。段階に応じた看護実践によって、長期入院患者の地域移行が進んでいきますが、段階が進むにつれ、患者の家族からの協力や他職種連携が必要になっていきます。

■精神科看護スペシャリストによる退院支援の実際について

一般の看護師は、退院調整には欠かせない、患者の家族とのかかわりや他職種連携を苦手と感じていることがわかっています。このような中、精神科認定看護師や精神看護専門看護師がリーダーシップをとって、困難患者の退院支援にあたっていますが、その活動はあまり評価されていません。そのような活動を可視化し、一般科と同じような退院調整看護師制度の構築を目指した研究をしています。

■精神科長期入院患者の退院支援に関する看護師向け教育プログラムの構築について

一般科においては、退院支援に特化した教育プログラムの効果が認められ、退院調整看護師の育成も進んでいます。一般科における退院支援とは異なる看護実践が必要となる精神科において、精神科看護師に対する教育プログラムの構築を目指して研究をしています。このような研究を通じて、精神科長期入院患者の地域移行において看護師たちが力を発揮できるように支援していきたいと考えています。

自閉スペクトラム症のある女性が 安心して子どもを育てるための支援



人間看護学部 人間看護学科 准教授 小林 孝子

研究分野 : 公衆衛生看護学 母子保健

自閉スペクトラム症を含む発達障害が注目され支援制度が整備されてきたのは、1990年代半ばです。その後約30年を経過し、妊娠・出産・育児を経験する発達障害のある女性は増加しています。発達障害のある女性は、妊娠中から出産、育児期にかけて、多くの困難な状況を抱えていることが報告され、心理社会的問題への対応は急務となっています。現在行っている研究では、自閉スペクトラム症に焦点を当て、インタビュー調査を実施しています。自閉スペクトラム症がある女性の経験を基に、専門職や家族の経験知を統合し、支援ニーズを明らかにしていこうと考えています。自閉スペクトラム症のある女性が、安心してその人らしく、妊娠から育児期の生活を送ることができることを目指しています。

■安定した育児につながる要因

自閉スペクトラム症のある母親は、日々の子育てや家事の細かなタスクを、パターン化するという方策で乗り切っていました。しかし、マルチタスクや臨機応変な対応を求められる育児において、パターン化することでうまくいかない場合には、固定されたパターンをはずし、新たなパターンにのりかえる対処を行っていました。また、苦手なところやできないところは全面的に代行してもらうことで円滑な生活を送っていました。さらに、これまでの人生で生きづらさを経験してきたことから、子どもを健全に育てるために努力することや、責められない支援を受けること、マジョリティとは距離を置き仲間とつながる心地よい場をつくりだすことをしていましたが、これらのことは自分自身のためだけではなく、同じ特性をもつ仲間のためにもなされていました。そして、子どもを思いやり、子どもや社会との関係性のなかでの自己をイメージし、子育てのなかで多くの肯定的な経験を重ねていることを明らかにしました。(自閉スペクトラム症の特性がある母親の育児の経験：安定につながる要因の検討,2022より)

■出産後に子どもをかわいいと思えなかった母親が子どもとの間に形成する絆

出産後は複層的な困難な状況と母親役割の負荷が大きく、子どもとの情緒的絆は形成されていませんでした。その後母親役割から解放されることや時間が経過することで、絆が形成されていました。その絆は子どもとの距離があり、標準的な母親像からも離れている独自のものでした。自閉スペクトラム症女性の育児は、ありのまま尊重されるべきであり、多様性が尊重される枠に収まらない支援の提供が望まれることを考察しました。(産後子どもをかわいいと思えなかった母親が子どもとの間に形成する絆—自閉スペクトラム症のある女性の語りから—2023より)

■子育て中の母親の「安心」とは

安心は子育て中の母親からよく聞かれる言葉です。育児支援施策でも多用され、目指すものとされています。この研究では、子育て中の母親の「安心感」を測定する尺度を開発しました。母親へのインタビュー調査、概念分析、2段階の調査を実施しました。尺度は、3因子「肯定感がある」「おだやかである」「周囲とのつながりがある」の35項目から構成されました。

看護教育と地域で展開される看護



人間看護学部 人間看護学科 講師 大羽 詩織

研究分野：看護小規模多機能型居宅介護、多胎児支援、看護教育

看護師は様々な養成機関を経て看護師として社会で活躍しています。看護教育について考えるとともに、ニーズが高まっている地域で治療を受けながらもその人らしく生活をしていく療養者やそれを支える家族について考えられる看護教育について研究をしています。

■看護小規模多機能型居宅介護の現状と看護教育

病院の在院日数の短縮化や住み慣れた地域で治療を受けたい、最期を迎えたいというニーズの高まりを受け、2012年から看護小規模多機能型居宅介護（以下、看多機）が制度化されました。これは従来の小規模多機能型居宅介護「訪問介護」「通所」「宿泊」に「訪問看護」が追加されたもので、在宅にいながらも安心して医療的ケアを受けることができる仕組みになっています。

本学では、4年生後期の地域生活実習で、看多機での実習を予定しています。

学生が看多機での実習を効果的に行い、地域で生活し続けることについてより学びが深められるように研究を進めています。



■双子をもつ母親の主観的幸福感と主観的健康観の関連要因

双子の子育てをしているお母さんは、1人を育てるお母さんよりも、絶え間ない育児に追われ、なかなか自分の時間を持つことができないことや、双子育児の特殊さから育児に不安を抱えていても他の人と共有しにくく孤立しやすいと言われてしています。

現在、子どもの法定検診は3歳児健康診査を最終として、その後は保育園、幼稚園、認定こども園等の所属先でのフォローとなっています。しかし、子どもの発達特性が出てくるのは3歳児健康診査以降の年齢であることも分かっており、この時期の双子の子育てをしているお母さんの現状や心身の状況を知り、必要な支援に繋げていくことが重要であると考えます。双子を子育てしているお母さんがより前向きに双子育児に取り組むことができるような仕組みづくりについて研究をしています。

■看護学生が抱く看護観とその背景要因

看護教育は保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づいて実施されていますが、教育課程は専修・各種学校、高等学校専修科、短期大学、大学のいずれかを経て、看護師国家試験に合格したら看護師免許が交付されるという並列型を特徴としています。

看護を行う上で看護観とは自分自身の寄る辺となるものであり、先行研究では、看護学生の看護観の育成は看護基礎教育課程において非常に重要な課題であると言われてしています。未来の医療を担う看護学生が、どのような看護観を持ち社会に出ていくのかについて研究を行いました。その結果、看護観には性別や看護をするにあたって理想とするモデルがいたかどうか、教育課程が影響していることが分かりました。看護教育の中で、学生自身が自分の看護観を形成することができるような関わりが重要であると考えています。

【滋賀県立大学 研究者一覧】

研究者別 研究分野・キーワード一覧

学部学科等	職名	氏名	研究分野・キーワード	
環境科学部	環境生態学科	教授	伴 修平	水圏生態学、プランクトン生態学
		教授	大堀 道広	地震工学、強震動、微動、津波、防災
		教授	丸尾 雅啓	水圏化学、分析化学
		教授	浦部 美佐子	陸水生物学、生態、底生動物、寄生虫、分類
		教授	後藤 直成	陸水学、環境科学、生物地球化学、物質循環
		准教授	野間 直彦	植物生態学
		准教授	吉山 浩平	理論生態学
		准教授	堂満 華子	古環境学、微生物学（浮遊性有孔虫）
		准教授	細井 祥子	環境微生物学、分子微生物学
		准教授	尾坂 兼一	森林水文学 生物地球化学
		講師	籠谷 泰行	森林生態学
		講師	肥田 嘉文	環境科学、影響評価科学
		講師	荒木 希和子	植物生態学、分子生態学、環境応答
	講師	上藤 慎治	大気科学、大気汚染物質、環境動態、発生源解析	
	環境政策・計画学科	教授	上河原 献二	環境法、環境政策、地球環境条約制度、自然保護制度、外来水生植物管理
		教授	高橋 卓也	環境経営、森林政策・計画
		教授	香川 雄一	環境地理学、都市社会地理学、政治地理学
		教授	村上 一真	環境経済学、開発経済学、環境政策論、地域経済・政策論
		教授	瀧 健太郎	流域政策・計画、EcoDRR、グリーンインフラ、防災・減災
		准教授	林 宰司	環境経済学、環境政策
		准教授	和田 有朗	環境政策、環境計画、環境システム、地域システム
		准教授	平岡 俊一	持続可能な地域づくり、市民参加・協働、NPO、環境社会学
		准教授	平山 奈央子	湖沼流域ガバナンス、水資源管理、住民参加
		講師	吉川 直樹	環境システム学、ライフサイクルアセスメント
	講師	堀 啓子	環境工学、社会・生態システム	
	環境建築デザイン学科	教授	陶器 浩一	建築設計、構造計画
		教授	村上 修一	ランドスケープデザイン、景観計画
		教授	高田 豊文	建築構造学 応用力学 木質構造 地震防災
		教授	芦澤 竜一	環境建築学
		准教授	金子 尚志	都市・建築環境設計、パッシブデザイン、クリマデザイン（室内気候のデザイン）
		准教授	ヒメネス ヘルデホ ホアン ラモン	建築史・意匠 都市計画・建築計画
		准教授	轟 慎一	都市計画、地域計画、都市政策、地域環境デザイン、景観論、集落論、生活空間論
		准教授	川井 操	都市史、建築計画
講師		迫田 正美	建築歴史・意匠、建築空間論	
講師		高屋 麻里子	日本建築史、都市史	
生物資源管理学科	講師	鄭 新源	建築環境工学、建築環境設備、環境性能評価、環境心理	
	講師	永井 拓生	建築構造、構造力学、数値解析、自然素材、建築保存・再生	
	教授	須戸 幹	環境化学	
	教授	杉浦 省三	魚類栄養学、養魚飼料学、水産増養殖	
	教授	泉 泰弘	作物学、栽培学	
	教授	原田 英美子	植物科学、重金属、水生植物、伊吹山	
	教授	入江 俊一	応用微生物、分子生物、バイオマス変換、リグニン、木質バイオマス	
	教授	高倉 耕一	個体群生態学、行動生態学	
	准教授	岩間 憲治	土壌物理学、灌漑排水学、GIS（地理情報システム）	
	准教授	上町 達也	園芸学	
	准教授	清水 顕史	植物遺伝育種学	
	准教授	増田 清敬	LCA、環境経済学、農業経済学	
	准教授	皆川 明子	生態工学、農業土木	
	准教授	泉津 弘佑	植物病理学	
	講師	飯村 康夫	土壌学	
	講師	畑 直樹	蔬菜園芸学、植物工場	
	講師	中川 敏法	反芻家畜、飼料開発、未利用資源、家畜飼養学、飼料開発学、動物栄養学	
講師	住田 卓也	植物病理学		
講師	加藤 恵里	獣害対策、農村ホスピタリティ、農山村、コミュニティ、自然、地域資源、地域振興、野生動物管理		
講師	松田 壮頭	灌漑排水学、土壌水文学、農業気象学、農業環境工学		

研究者別 研究分野・キーワード一覧

学部学科等	職名	氏名	研究分野・キーワード	
工学部	材料化学科	教授	仲村 龍介	金属材料
		教授	松岡 純	ガラス科学、熱物性、力学特性、無機材料
		教授	奥 健夫	エネルギー環境材料、光、量子情報、エネルギー、太陽電池
		准教授	宮村 弘	金属材料学、金属間化合物、表面処理
		准教授	山田 明寛	無機材料
		准教授	秋山 毅	エネルギー環境材料
		講師	西脇 瑞紀(兼務)	無機材料
		講師	鈴木 厚志	エネルギー環境材料 太陽電池 量子コンピューター
		教授	徳満 勝久	有機複合材料、高分子物性
		教授	金岡 鐘局	高分子精密合成、高分子機能
		教授	北村 千寿	有機環境材料、有機化学
		准教授	竹下 宏樹	高分子構造、高分子物性
		准教授	谷本 智史	高分子機能設計、ブロックポリマー、相分離、ミセル、ペプチド、吸着、表面、界面、微粒子、バイオミネラリゼーション、キチン・キトサン、貴金属イオン
		准教授	加藤 真一郎	構造有機化学、超分子化学、物理有機化学
		講師	木田 拓充(兼務)	高分子物性、高分子構造、分光測定
	講師	伊田 翔平	高分子合成、精密合成、リビング重合、高分子ゲル	
	講師	竹原 宗範	生体機能材料、応用微生物学、遺伝子工学、生物学、有機環境材料	
	機械システム 工学科	教授	山根 浩二	内燃機関、バイオディーゼル、燃焼、ディーゼル噴霧、油化学
		教授	南川 久人	流体工学、混相流工学、気泡工学、ファインバブル
		教授	奥村 進	ライフサイクル工学、品質設計、メンテナンス工学
		教授	門脇 光輝	偏微分方程式論、特に数学的散乱理論
		教授	呉 志強	振動工学、計算工学、振動、共振、形状最適化、最適設計、FEM解析
		教授	片山 仁志	制御工学、制御理論、システム工学
		教授	田邊 裕貴	材料強度学、破壊力学、表面改質、非破壊検査
		准教授	山野 光裕	ロボット工学、メカトロニクス、機械制御
		准教授	橋本 宣慶	生産加工学、人間工学、人工現実感
		准教授	河崎 澄	エネルギーと動力、燃焼工学、内燃機関
		准教授	安田 孝宏	流体工学、流体騒音
		准教授	大浦 靖典	機械ダイナミクス、振動工学
		准教授	和泉 遊以	材料強度学、破壊力学、表面改質、非破壊検査
		講師	西岡 靖貴	アクチュエーター、ソフトメカニクス、空気圧制御システム
		講師	田中 昂	機械力学、振動工学、構造ヘルスマニタリング
	講師	出島 一仁	熱工学、伝熱工学、MEMS	
	電子システム 工学科	教授	柳澤 淳一	デバイス工学、半導体プロセス工学、イオンビーム工学
		教授	岸根 桂路	集積システム、超高速通信システム、アナログ・デジタル混載集積回路、センサシステム
		准教授	一宮 正義	デバイス工学、光物性、超高速分光
准教授		土谷 亮	集積回路、アナログRF回路、低消費電力技術	
講師		井上 敏之	集積回路、無線通信、光ファイバ無線	
講師		番 貴彦	半導体デバイス、記憶素子、ナノ粒子、2次元材料	
教授		乾 義尚	パワーエレクトロニクス、電力工学、エネルギー変換、燃料電池	
教授		作田 健	センシング工学、磁気計測、磁気センシング応用	
准教授		坂本 眞一	未利用エネルギー、創エネルギー、環境発電、熱音響、超音波、時系列解析	
准教授		小林 成貴	走査型プローブ顕微鏡、表面・界面科学	
講師		平山 智士	電磁流体力学、プラズマ工学	
教授		酒井 道	メタマテリアル科学、プラズマ理工学	
教授		砂山 渡	データマイニング、知能情報工学、教育工学	
准教授		宮城 茂幸	デジタル信号処理、画像処理、時系列解析	
准教授		服部 峻	ウェブ知能、時空間DB、ゲーム情報学	
講師	榎本 洸一郎	画像工学、システム情報科学、農林水産業、実応用		
ガラス工学 研究センター	教授	松岡 純(兼務)	ガラス科学、熱物性、力学特性、無機材料	
	准教授	山田 明寛(兼務)	無機材料	
	講師	西脇 瑞紀	無機材料	
	講師	木田 拓充	高分子物性、高分子構造、分光測定	

研究者別 研究分野・キーワード一覧

学部学科等	職名	氏名	研究分野・キーワード
地域文化学科	教授	市川 秀之	日本民俗学
	教授	亀井 若菜	日本美術史
	教授	京樂 真帆子	平安京、都市社会史、女性史
	教授	東 幸代	日本近世史
	教授	佐藤 亜聖	考古学、文化財科学、歴史学
	教授	塚本 礼仁	人文地理学
	教授	石川 慎治	保存修景、建築史
	准教授	萩原 和	景観まちづくり、都市農村における地域計画
	准教授	横田 祥子	社会人類学、宗教人類学、地域研究
	准教授	櫻井 悟史	歴史社会学、文化社会学、犯罪社会学、日本近現代史
	准教授	金 宇大	世界遺産学、アジア考古学
	講師	木村 可奈子	東アジア国際関係史
	講師	高木 純一	日本中世史、村落史
	生活デザイン学科	教授	印南 比呂志
教授		横田 尚美	服飾文化史、西洋服装史、日本洋装史
教授		森下 あおい	服飾デザイン、被服構成学
教授		藤木 庸介	建築計画、伝統的居住文化の維持・保全、都市計画、家政・生活学一般、自律的観光
准教授		佐々木 一泰	空間デザイン、建築デザイン、構法研究、建築史・意匠、家政・生活学一般
准教授		山田 歩	行動経済学、ナッジ、消費者心理学、マーケティング
講師		徐 慧(ソ-ヘ-)	視覚伝達デザイン、グラフィックデザイン、イラストレーション、ブランディング
生活栄養学科	講師	大江 由起	建築・住環境、照明環境、色彩環境
	教授	矢野 仁康	病態栄養学、分子細胞生物学
	教授	中井 直也	運動栄養学
	教授	辰巳 佐和子	臨床栄養学、腎臓内科学、骨代謝学
	教授	福渡 努	栄養神経科学、栄養生理学、食品機能学 食品、栄養、代謝
	准教授	佐野 光枝	食品学、栄養生化学、分子栄養学、発生生物学、食生活学
	准教授	青木 るみ子	給食経営管理、衛生管理、調理科学、健康教育
	准教授	遠藤 弘史	病態栄養学、分子細胞生物学
	准教授	今井 絵理	公衆栄養学、栄養疫学、応用栄養学、食生活学
	准教授	東田 一彦	運動生理・生化学、スポーツ栄養学
	准教授	桑原 頌治	栄養学、臨床栄養学、腎臓内科学
	講師	安澤 俊紀	栄養学、病態生理学、臨床栄養学
	講師	畑山 翔	基礎栄養学、食品微生物学
	講師	田中 大也	病態栄養学、分子細胞生物学
人間関係学科	教授	高梨 克也	コミュニケーション科学、身体動作学
	教授	松嶋 秀明	臨床心理学
	教授	上野 有理	発達心理学、比較認知科学、霊長類学
	教授	丸山 真央	地域社会学、都市社会学
	准教授	大野 光明	歴史社会学、社会運動論、社会運動史、沖縄、軍事化、「戦後」史
	准教授	杉浦 由香里	教育学、教育史
	准教授	本宮 裕示郎	教育方法学、教養論、学力論
	准教授	原 未来	若者支援、ひきこもり、青年期教育
	講師	中村 好孝	社会学（社会学史、障害者福祉）
	講師	谷口 友梨	社会心理学、実験心理学
国際コミュニケーション学科	教授	棚瀬 慈郎	文化人類学、チベット学、チベット地域研究
	教授	呉 凌非	言語処理・言語学
	教授	ジョン リビー	英語
	教授	ボルジギン ブレンサイン	社会史、現代中国研究、モンゴル研究
	教授	吉田 悦子	言語学、談話分析、語用論
	准教授	山本 薫	英文学、英国小説、ヨーロッパ現代思想
	准教授	吉村 淳一	ドイツ語学
	准教授	河 かおる	朝鮮近代史
	准教授	マーティン ホークス	留学英語対策講座
	准教授	中谷 博美	認知言語学、語用論、英語教育
講師	間 永次郎	社会思想史、南アジア地域研究、ポストコロナ論、宗教学	
講師	岡本 夢子	フランス文学、フランス語圏文化、文学社会学	

人間文化学部

研究者別 研究分野・キーワード一覧

学部学科等	職名	氏名	研究分野・キーワード		
人間看護学部	人間看護学科	教授	伊丹 君和	基礎看護学、基礎看護技術、看護教育、教育工学	
		教授	越山 雅文	産婦人科学、母性看護・助産、女性の健康・周産期ケア、浮腫診断・治療、子宮頸がんの診断・予防	
		教授	坪井 宏仁	心身医学、精神神経免疫学、国際保健	
		教授	本田 可奈子	救急看護、看護教育、看護管理	
		准教授	米田 照美	基礎看護学、看護管理学、医療安全教育、危険認知、視線計測、看護者（看護学生・看護師）	
		講師	関 恵子	基礎看護学、基礎看護技術、医療福祉工学	
		講師	千田 美紀子	基礎看護学、看護教育	
		教授	古株 ひろみ	臨床看護学、小児看護、家族看護	
		教授	千葉 陽子	生涯発達看護学 助産学	
		准教授	板谷 裕美	母性看護・助産学、ウィメンズヘルス、助産ケア、母乳育児、助産師のキャリア発達支援	
		准教授	川端 智子	小児看護、子どもと喫煙、未成年の喫煙防止教育、NICU	
		准教授	古川 洋子	地域看護学、母性看護学、助産学、いのちの教育、産み育て支援、社会的養護	
		講師	子安 恵子	母性看護学、助産学	
		講師	玉川 あゆみ	地域看護学、小児看護学、発達障害児の外来受診、家族支援	
		講師	松原 千晴	母性看護学、助産学	
		講師	渡邊 友美子	母性看護学、助産学、生涯発達看護学	
		教授	糸島 陽子	エンドオブライフケア、成人看護学、生命倫理	
		教授	岡本 紀子	高齢看護学、感染予防、地域看護学	
		教授	横井 和美	臨床看護学、基礎看護学、慢性期の看護、看護管理	
		准教授	荒川 千登世	臨床看護学、成人看護学、急性期ケア、回復期ケア、看護教育	
		講師	生田 宴里	臨床看護学、クリティカルケア看護、成人看護学	
		講師	岡崎 瑞生	看護学、老年看護学、生活の質	
		講師	小野 あゆみ	成人看護学、慢性期ケア、肝疾患患者の看護	
		講師	片山 将宏	成人看護学、慢性疾患看護、脳血管障害、外来看護	
		講師	喜多下 真里	成人看護学、がん看護、緩和ケア	
		講師	中川 美和	成人看護学、慢性期ケア、糖尿病患者の看護	
		講師	松井 宏樹	老年看護学	
		教授	新井 香奈子	在宅看護学、老年看護学、地域看護学	
		教授	牧野 耕次	生涯発達看護学、精神看護学、かかわり、巻き込まれ、involvement	
		准教授	川田 陽子	精神看護、専門看護師実践	
		准教授	小林 孝子	公衆衛生看護学、母子保健	
		准教授	馬場 文	公衆衛生看護学、児童虐待防止対策	
		准教授	森本 安紀	在宅看護学、民俗学	
		講師	大羽 詩織	看護小規模多機能型居宅介護、多胎児支援、看護教育	
		講師	川口 恭子	公衆衛生看護学、保健師活動、ひきこもり、家族支援	
		講師	國丸 周平	在宅看護学、成人看護学、意思決定支援	
		講師	下通 友美	精神看護学	
		全学共通教育推進機構	准教授	坂本 輝世	外国語教育論、ライティング教育
			講師	サンフォ ジャンパティスト	教育開発、教育品質
			講師	真島 アマンダ	英語教授法、応用言語学
			講師	近藤 佑樹	アメリカ文学、アメリカ文化
		地域共生センター	教授	鵜飼 修	都市計画・建築計画、地域研究、地域計画、地域活性化、環境共生まちづくり、コミュニティ・ビジネス
			講師	上田 洋平	地域学、地域文化学
地域ひと・モノ・未来 情報研究センター	准教授	杉山 裕介	偏微分方程式		

※詳しい研究者情報は、ホームページ (<http://db.spins.usp.ac.jp/>) をご覧ください。

受付年月日	年 月 日
受付番号	—

技術相談ニーズ調査票

滋賀県立大学

相談を希望する学部 (希望がありましたら ○で囲んでください)		・環境科学部 ・工学部 ・人間文化学部 ・人間看護学部				
申込者	貴社名	*パンフレット等貴社の事業内容がわかるものがありましたら添付してください。				
	部署・役職					
	担当者氏名					
	連絡先	住所 〒				
		TEL	—	—	FAX	—
E-mail						
URL						
相談事項	相談の目的 (○をつけてください)	1. 製品を改良したい 2. 製品、製造における技術上のトラブルを解消したい 3. 新技術・新製品を開発したい 4. 機械・装置を改良したい 5. 新しい技術を身につけたい 6. 新技術に関する情報・資料がほしい 7. 製品の機能や性質を調べたい 8. その他()				
	相談内容	※できるだけ具体的に記入してください。お手元に相談内容を記載したものがありましたら、コピーを提出いただくだけで記入は不要です。				
	相談内容キーワード	①	②	③		
	相談分野 (○をつけてください)	1. 農林 2. 食品 3. バイオ 4. 物質・エネルギー 5. 機械・制御・輸送 6. 金属材料・機能性物質 7. 建築 8. 生活・環境 9. 介護・看護関連 10. 情報関連 11. 分析・計測技術 12. メカトロニクス 13. その他()				
	希望する形態 (○をつけてください)	1. 専門知識・技術の提供 2. 分析・試験の依頼 3. 技術コンサルティング 4. 共同研究 5. 特許・ノウハウのライセンス 6. その他()				
面談を希望する教員 (希望がありましたら記入ください)	学部	学部	氏名			
相談紹介者 (紹介者なしでも結構です)	所属名	TEL	—	—	FAX	—
		役職	氏名			

技術相談受付窓口

公立大学法人滋賀県立大学 産学連携センター

TEL:0749-28-8604/8610

FAX:0749-28-8620

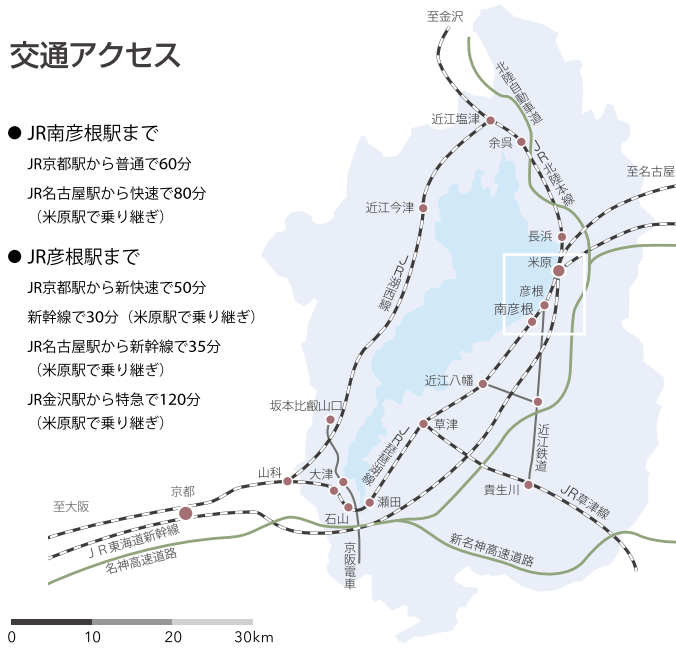
交通アクセス

● JR南彦根駅まで

JR京都駅から普通で60分
JR名古屋駅から快速で80分
(米原駅で乗り継ぎ)

● JR彦根駅まで

JR京都駅から新快速で50分
新幹線で30分 (米原駅で乗り継ぎ)
JR名古屋駅から新幹線で35分
(米原駅で乗り継ぎ)
JR金沢駅から特急で120分
(米原駅で乗り継ぎ)



大学周辺マップ

● JR南彦根駅から大学まで

バスで15分 (南彦根駅西口：南彦根県立大学線)
タクシーで10分

● JR彦根駅から大学まで

バスで25分 (彦根駅：三津屋線)
タクシーで15分

● 名神彦根ICから大学まで

車で20分 (6.5km)



大学構内図



公立大学法人滋賀県立大学 産学連携センター

〒522-8533

滋賀県彦根市八坂町 2500

TEL:0749-28-8604/8610 FAX:0749-28-8620

E-mail: sangaku@office.usp.ac.jp

ホームページ : <https://www.usp.ac.jp/chiikisangaku/center/>